
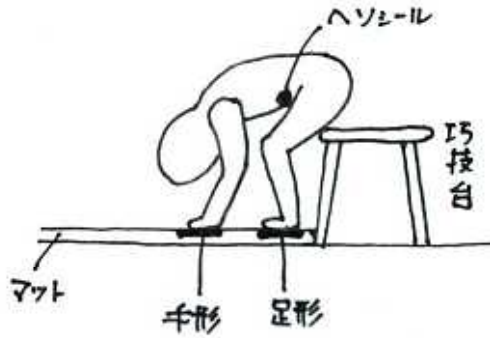


## 教材事例書式

<p>教材教具名    マット ここにタッチ                   (前転なんて簡単だ！)</p>	<p>教科    ( 体育 )</p>	
<p>教材教具写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		
<p>教材教具の概略(ねらいと使い方)    発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<p>1    ねらい    ボディーイメージを持ちにくい為マット運動(前転)に苦手意識や不安を持っている児童に、視覚支援により体の動かし方(手の着く位置、あごを引くなど)を示し、前転ができるようにする。</p> <p>2    発達段階等    自閉症児等で、マットでの自分のボディーイメージがわかりにくい児童</p> <p>3    使い方          マット運動では、手の付き方や足の付き方頭の動かしかなどトータルのボディーイメージが求められる。しかし自己イメージの把握の苦手な自閉症児等では、手や足をどう着けばいいのかがわからないことがある。視覚的にイメージをもたせると理解しやすい特性をいかして、手や足を置く位置などを絵型足形をつかって示したり、赤丸シールをヘソの位置に貼りそれを見るようにし、体を丸めてあごを引く動作を引き出させるようにした。手形と足形の間隔を児童にあわせて狭めにとることで重心が前に行き体を回転し易い体勢を作らせることができる。特に不安のある児童には巧技台等を準備し、まず椅子のように安心して座らせ、ゆっくり手や足をポジショニングしていくことで自然と回りやすい姿勢を作らせることができる。</p>		
<p>児童生徒の反応や教材の評価    使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)</p>		
<p>どう体を動かすのかイメージが持てないので、少し恐怖心さえ持っていた児童でも、手や足のつく位置をちゃんと示してあげ、さらにヘソシールを使って、回転中の視点として自分のヘソを見るようにしたことで、今まで前転ができなかった児童たちが前転できていった。前転のスタート時のポジショニングが分かりやすいため前転を回れるようになる等、効果があった。不安なく回れたことで自信を持ち自分から進んで前転をする児童もでてきた。</p> <p>フェルト地に両面テープでマットに直接貼ったが、授業後毎回剥がすとなると粘着テープが巻き付いたり、粘着力が落ちたりするので、木綿の白布(約0.9×1.2m)に貼り付けてそれを敷くかたちにした。布をマットに載せているだけなのでタッチ時に勢いやのある動作では滑ることも考えられるのでそういう時には、やはりマットに直付けか、描く等が安全かもしれない。</p>		